

## アフガンで用水路建設

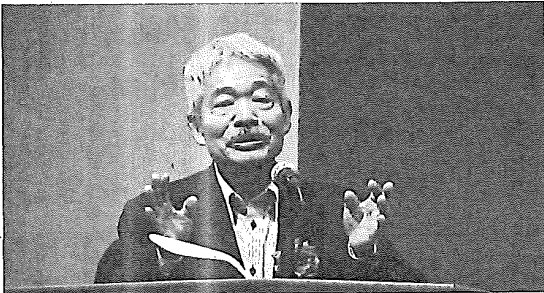
# 中村哲氏が活動報告

建設コンサル協九州支部50年式典

アフガニスタンで長年にわたり用水路の建設や補修事業に取り組む非政府組織PMS（平和医療団・日本）の総院長、中村哲医師（71）

福岡市出身氏が7日、同市中央区で開かれた建築関係者らでつくる建設コンサルタツ協会九州支部の創立50周年式典で、現地での活動を報告した。

式典には約260人の会



講演する中村哲医師

員が出席。同支部は、中村氏らによる用水路建設や緑化事業の理念を学ぼうと講師に招いた。

中村氏は1984年、ハルセン病治療に当たったためパキスタン北西部に赴任。89年からはアフガニスタンで医療支援を始めた。2000年の大干ばつを機に03年から東部のナンガルハル州でかんがい用水路の建設などに取り組んでいる。

アフガニスタンでは干ばつの影響で多くの命が奪われている現状を説明し「砂

漠化した村の復興には100の診療所より1本の水路が必要」と述べた。

また、現地政府の農業政策が失敗に終わったのは治水に力を入れなかったことが原因と指摘し「力づくで自然を押しさえることはできない。人間と自然の関係を見つめ直していかねばいけない」と語った。

（西田昌矢）